

数学 ①

◀文・神道文化・法・人間開発学部▶

1

解答

(1)ア. 7 イウ. 26

(2)エオ. -2 カ. 1 キク. 14 ケコ. -3

(3) i) サ-① シ-④ ス-⑤ セ-⑦ ii) ソ-⑦ タ-①

(4) チツ. 16 テ. 7 ト. 2 (5) ナ. 2 ニヌ. 11 (6) ネノハヒ. 1069

解説

《小問6問》

$$(1) \quad y = x^2 - 10x + a = (x - 5)^2 - 25 + a$$

これより、 $4 \leq x \leq 7$ のとき、 y が最大値をとるのは、軸の方程式が $x = 5$ より

$$x = 7 \rightarrow \text{ア}$$

のときである。また、このとき、最大値が5となる a の値は

$$7^2 - 10 \cdot 7 + a = 5$$

$$a = 26 \rightarrow \text{イウ}$$

$$(2) \quad 2x^2 + (m - 2)x + m + 4 = 0 \quad \dots\dots \text{①}$$

2次方程式①が重解をもつ条件は、2次方程式①の判別式を D とすると、 $D = 0$ であるから

$$D = (m - 2)^2 - 4 \cdot 2(m + 4) = 0$$

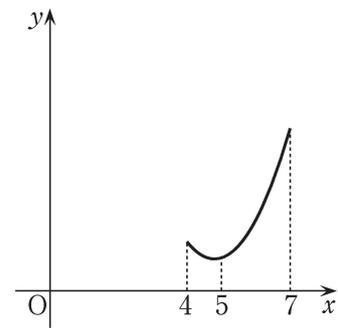
$$m^2 - 4m + 4 - 8m - 32 = 0$$

$$m^2 - 12m - 28 = 0$$

$$(m + 2)(m - 14) = 0$$

$$m = -2, 14$$

$m = -2$ のとき、①は $2x^2 - 4x + 2 = 0$



$$2(x-1)^2=0 \quad x=1$$

$m=14$ のとき, ①は $2x^2+12x+18=0$

$$2(x+3)^2=0 \quad x=-3$$

以上より

$m=-2$ のとき 重解は $x=1$ →エオ, カ

$m=14$ のとき 重解は $x=-3$ →キク, ケコ

(3) i) $f(x)=x^2-4x+4=(x-2)^2$

より

$f(x)<0$ すなわち $(x-2)^2<0$ の解は, ない (①) →サ

$f(x)\leq 0$ すなわち $(x-2)^2\leq 0$ の解は

$$x=2 \text{ (④)} \rightarrow \text{シ}$$

$f(x)>0$ すなわち $(x-2)^2>0$ の解は, 2 以外のすべての実数 (⑤)

→ス

$f(x)\geq 0$ すなわち $(x-2)^2\geq 0$ の解は, すべての実数 (⑥) →セ

ii) $g(x)=-x^2-4x-5=-(x+2)^2-1$

より, $g(x)<0$ のとき

$$-(x+2)^2-1<0 \quad (x+2)^2+1>0$$

よって, $g(x)<0$ の解は, すべての実数 (⑦) →ソ

また, $g(x)>0$ のとき

$$-(x+2)^2-1>0 \quad (x+2)^2+1<0$$

よって, $g(x)>0$ の解は, ない (⑧) →タ

(4) $1-\frac{n-1}{3}>\frac{n}{4}$

両辺に 12 をかけて $12-4(n-1)>3n$

$$12-4n+4>3n \quad -7n>-16$$

$$n<\frac{16}{7} \rightarrow \text{チツ, テ}$$

また, $n<\frac{16}{7}=2.2\dots$ であるから, この不等式を満たす最大の自然数 n

の値は

$$n=2 \rightarrow \text{ト}$$

(5) p, q が素数のとき, pq の正の約数の総和は, $(1+p)(1+q)$ であり,

これが36であるから

$$(1+p)(1+q) = 36 \quad \cdots\cdots\textcircled{1}$$

ここで、 $p < q$ より、 $1+p < 1+q$ であるから、 $\textcircled{1}$ より

$$(1+p, 1+q) = (1, 36), (2, 18), (3, 12), (4, 9)$$

この組の中で、 p, q が素数となる組は

$$(p, q) = (2, 11) \rightarrow \text{ナ}, \text{ニヌ}$$

(6) 14で割ると5余り、9で割ると7余る自然数を n とし、 x, y を整数とすると

$$n = 14x + 5 = 9y + 7 \quad \cdots\cdots\textcircled{1}$$

と表せる。このとき、 $\textcircled{1}$ は $14x + 5 = 9y + 7$

$$14x - 9y = 2 \quad \cdots\cdots\textcircled{2}$$

ここで、 $x=4, y=6$ のとき

$$14 \cdot 4 - 9 \cdot 6 = 2 \quad \cdots\cdots\textcircled{3}$$

であるから、 $\textcircled{2} - \textcircled{3}$ より

$$14(x-4) - 9(y-6) = 0$$

$$14(x-4) = 9(y-6)$$

14と9は互いに素であるから、 k を整数とすると

$$y-6 = 14k \quad y = 14k + 6$$

と表すことができる。 $\textcircled{1}$ より

$$n = 9y + 7 = 9(14k + 6) + 7 = 126k + 61$$

$$k=8 \text{ のとき, } n = 126 \cdot 8 + 61 = 1069$$

である。 $k \leq 7$ のとき、 $n < 1000$ であるから、4桁で最小のものは、 $k=8$ のときのみとなる。

すなわち $n=1069 \rightarrow \text{ネノハヒ}$

2

解答

(1) i) アイ. 67 ウエ. 84 ii) オー $\textcircled{3}$

iii) カ. 8 キ. 5

(2) i) クケコ. 254 ii) サシス. 128 iii) セソタチ. 5796

(3) i) ツテト. 120 ii) ナニ. 72 iii) ヌ. 1 ネノ. 11 ハ. 1 ヒ. 3

解説

《四分位数, 四分位偏差, 組分け, 円順列, 確率の乗法定理》

(1) i) 大きき20のデータを小さい順に並べると

63, 65, 66, 66, 67, 67, 68, 74, 74, 75 ……①

76, 79, 81, 83, 84, 84, 86, 87, 87, 88 ……②

ここで、上段の下位グループを①、下段の上位グループを②とすると、
第1四分位数 Q_1 は、①の5番目と6番目の平均をとって

$$Q_1 = \frac{67+67}{2} = 67 \rightarrow \text{アイ}$$

第3四分位数 Q_3 は、②の5番目と6番目の平均をとって

$$Q_3 = \frac{84+84}{2} = 84 \rightarrow \text{ウエ}$$

ii) パンが売れ残る日数20日間で75%程度にしたい場合の日数は

$$20 \times 0.75 = 15 \text{ 日間}$$

である。データ②より、売れ残る日数を75%程度にしたい場合は、販売
個数を84(③)個にするのが適当である。→オ

iii) 四分位偏差は $\frac{Q_3 - Q_1}{2} = \frac{84 - 67}{2} = 8.5 \rightarrow \text{カ, キ}$

(2) i) Aチーム, Bチームのどちらか一方が0人でもよいとすると、
A, Bの2チームに8人を分ける方法は

$$2^8 = 256 \text{ 通り}$$

A, Bの2チームに1人以上入る分け方は、この256通りのうち、A, B
のどちらかが0人となる場合を除いて

$$256 - 2 = 254 \text{ 通り} \rightarrow \text{クケコ}$$

ii) サトルさんとヒカルさんの2人を同じチームにしない場合は、サト
ルさんとヒカルさんが、それぞれ、AチームまたはBチームのどちらかに
入ればよいので、その入り方は2通り。また、他の6人の分け方は

$$2^6 = 64 \text{ 通り}$$

であるから、求める場合の数は

$$64 \times 2 = 128 \text{ 通り} \rightarrow \text{サシス}$$

iii) まず、3チームA, B, Cのうち、1つまたは2つのチームが0人
でもよいとすると、A, B, Cの3チームに8人を分ける方法は

$$3^8 = 6561 \text{ 通り}$$

次に、8人がA, B, Cの3チームのうち、1チームに入る入り方は、
全部で3通りある。さらに、8人がA, B, Cの3チームのうち、2チー

ムにそれぞれ1人以上入る入り方は, i)より, 254通りある。また, この2チームの並び方は, ${}_3C_2=3$ 通りあるので, 8人をA, B, Cの3チームにそれぞれ1人以上入るように分ける方法は

$$6561 - 3 - 254 \times 3 = 5796 \text{ 通り} \quad \rightarrow \text{セソタチ}$$

(3) i) 6人が円卓を囲んで座るときの並び方は

$$(6-1)! = 5! = 120 \text{ 通り} \quad \rightarrow \text{ツテト}$$

ii) まず, 課長と係長が隣り合う並び方を求める。

課長と係長2人1組と残り4人の円卓の並び方は

$$(5-1)! = 4! = 24 \text{ 通り}$$

その各々について, 課長と係長の並び方は

$$2! = 2 \text{ 通り}$$

以上, 課長と係長が隣り合わないように6人が円卓を囲んで座るときの並び方は, i)を利用して

$$120 - 24 \times 2 = 72 \text{ 通り} \quad \rightarrow \text{ナニ}$$

別解 まず, 部下4人の円卓を囲んで座るときの並び方は

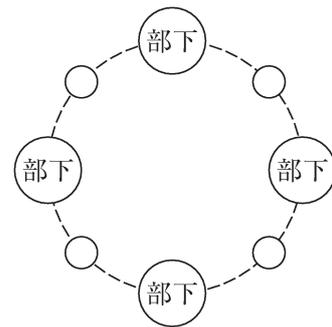
$$(4-1)! = 3! = 6 \text{ 通り}$$

であり, 部下と部下の間の4カ所に課長と係長が1人ずつ座るときの並び方は

$${}_4P_2 = 4 \cdot 3 = 12 \text{ 通り}$$

よって, 求める並び方は

$$6 \times 12 = 72 \text{ 通り}$$



iii) 12本のくじの中に当たりくじが4本あり, 一度引いたものは元に戻さないものとする。はじめに課長が1本引き, 次に係長が1本引くとき, 2人とも当たる確率は

$$\frac{4}{12} \times \frac{3}{11} = \frac{1}{11} \quad \rightarrow \text{ヌ, ネノ}$$

また, 係長が当たる場合は

課長が当たり, 係長が当たる または

課長がはずれ, 係長が当たる

の2通りである。これらは互いに排反であるから, 求める確率は

$$\frac{4}{12} \times \frac{3}{11} + \frac{8}{12} \times \frac{4}{11} = \frac{1}{3} \rightarrow \text{ハ, ヒ}$$

- 3** **解答** (1) i) **アイ.** 36 **ウエ.** 72
 ii) **オ.** 5 **カ.** 5 **キク.** -5 **ケ.** 3 **コ.** 5
 iii) **サシ.** -1 **ス.** 5 **セ.** 4 **ソ.** 1 **タ.** 5 **チ.** 4
 (2) i) **ツ.** 6 ii) **テ.** 8 **ト.** 2 **ナ.** 4 **ニ.** 2 **ヌ.** 9
 iii) **ネ.** 9 **ノ.** 2 **ハ.** 4 **ヒ.** 2

===== 解説 =====

《角の二等分線, 三角比, 正弦定理, 三角形の面積, 外接円と内接円の半径》

(1) i) $\angle BAE = \alpha$ とおくと, 直線 AE は $\angle A$ の二等分線であるから

$$\angle A = 2\alpha$$

また, $\angle B = 2\angle A$ より

$$\angle B = 2 \cdot 2\alpha = 4\alpha$$

さらに, $\triangle ABC$ は二等辺三角形であるから

$$\angle B = \angle C = 4\alpha$$

これらより

$$\angle A + \angle B + \angle C = 180^\circ$$

$$2\alpha + 4\alpha + 4\alpha = 180^\circ$$

$$10\alpha = 180^\circ \quad \alpha = 18^\circ$$

以上より $A = \angle A = 2 \cdot 18^\circ = 36^\circ \rightarrow \text{アイ}$

また $\angle B = \angle C = 4 \cdot 18^\circ = 72^\circ$

であり, 直線 BF は $\angle B$ の二等分線であるから

$$\angle FBC = \frac{1}{2} \angle B = \frac{1}{2} \cdot 72^\circ = 36^\circ$$

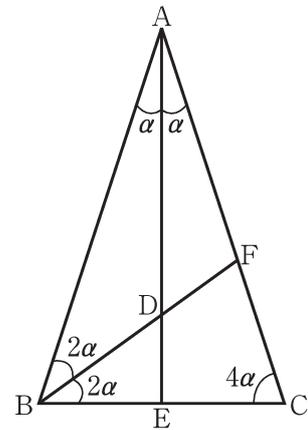
以上より

$$\angle BFC = 180^\circ - \angle FBC - \angle C = 180^\circ - 36^\circ - 72^\circ = 72^\circ \rightarrow \text{ウエ}$$

ii) i) より, $\triangle BCF$ と $\triangle BFA$ は二等辺三角形であるから

$$BC = BF = AF = x$$

とおくと, $\triangle ABC \sim \triangle BCF$ より



$$AB : BC = BC : CF$$

$$AB : BC = BC : (AC - AF)$$

$$2\sqrt{5} : x = x : (2\sqrt{5} - x)$$

$$x^2 = 2\sqrt{5} (2\sqrt{5} - x)$$

$$x^2 + 2\sqrt{5}x - 20 = 0$$

$$x = \frac{-\sqrt{5} \pm \sqrt{(-\sqrt{5})^2 - 1 \cdot (-20)}}{1}$$

$$= -\sqrt{5} \pm 5$$

$$x > 0 \text{ より, } x = 5 - \sqrt{5} \text{ である。よって, } BC = x$$

$$= 5 - \sqrt{5} \rightarrow \text{オ, カ}$$

このとき

$$FC = AC - AF = 2\sqrt{5} - (5 - \sqrt{5})$$

$$= -5 + 3\sqrt{5} \rightarrow \text{キク, ケ, コ}$$

iii) まず, $\angle AEB = 90^\circ$ であり, 点 E は線分 BC の中点であるから

$$BE = \frac{1}{2}BC = \frac{5 - \sqrt{5}}{2}$$

このとき, $\triangle ABE$ より

$$\sin \angle BAE = \frac{BE}{AB} = \frac{\frac{5 - \sqrt{5}}{2}}{2\sqrt{5}} = \frac{5 - \sqrt{5}}{4\sqrt{5}}$$

$$= \frac{5\sqrt{5} - 5}{4 \cdot 5} = \frac{-1 + \sqrt{5}}{4} \rightarrow \text{サシ, ス, セ}$$

また, F から AB に下ろした垂線を FH とすると

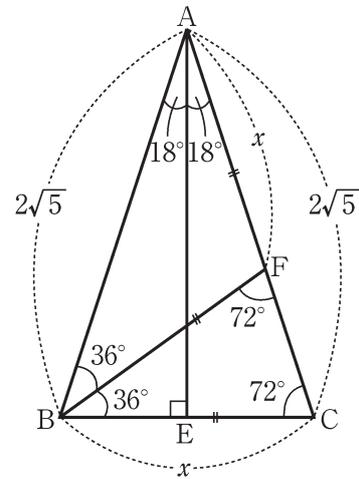
$$\cos \angle FBC = \cos \angle FAH = \frac{AH}{AF} = \frac{\frac{1}{2}AB}{x}$$

$$= \frac{\sqrt{5}}{5 - \sqrt{5}} = \frac{\sqrt{5}(5 + \sqrt{5})}{(5 - \sqrt{5})(5 + \sqrt{5})}$$

$$= \frac{5\sqrt{5} + 5}{20} = \frac{1 + \sqrt{5}}{4} \rightarrow \text{ソ, タ, チ}$$

(2) i) まず, $BC = 4$ より $BE = \frac{1}{2}BC = 2$

また, $AD : DE = 3 : 1$ であり, 直線 BF は $\angle B$ の二等分線であるから



$$AB : BE = AD : DE \quad AB : 2 = 3 : 1$$

$$AB = 6 \quad \rightarrow \text{ツ}$$

ii) まず, $\triangle ABE$ に三平方の定理を用いると

$$AE = \sqrt{AB^2 - BE^2} = \sqrt{6^2 - 2^2} = 4\sqrt{2}$$

であるから, $\triangle ABC$ の面積 S は

$$S = \frac{1}{2} \cdot BC \cdot AE = \frac{1}{2} \cdot 4 \cdot 4\sqrt{2}$$

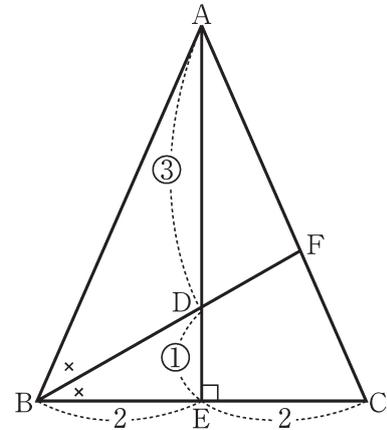
$$= 8\sqrt{2} \quad \rightarrow \text{テ, ト}$$

このとき

$$S = \frac{1}{2} \cdot AB \cdot AC \cdot \sin A$$

$$8\sqrt{2} = \frac{1}{2} \cdot 6 \cdot 6 \cdot \sin A$$

$$\sin A = \frac{4\sqrt{2}}{9} \quad \rightarrow \text{ナ, ニ, ヌ}$$



iii) $\triangle ABC$ の外接円の半径 R について, 正弦定理を用いると

$$\frac{BC}{\sin A} = 2R$$

$$R = \frac{BC}{2 \sin A} = \frac{4}{2 \cdot \frac{4\sqrt{2}}{9}} = \frac{9}{2\sqrt{2}}$$

$$= \frac{9\sqrt{2}}{4} \quad \rightarrow \text{ネ, ノ, ハ}$$

次に, $\triangle ABC$ の内接円の半径 r について

$$S = \frac{r}{2} (AB + BC + CA) \quad 8\sqrt{2} = \frac{r}{2} (6 + 4 + 6)$$

$$r = \sqrt{2} \quad \rightarrow \text{ヒ}$$